

立憲民主党 さっぽろNEWS

立憲民主党北海道連【臨時大会】

新代表に勝部賢志参院議員「力を結集し進む」

立憲民主党北海道連は9月20日、札幌市内で臨時大会を開き、新代表に勝部賢志参院議員を選出した。

勝部議員は北海道議を4期務め、民主党道連幹事長や道議会副議長を歴任。2019年の参院選で初当選し、今年7月の選挙で再選を果たした。逢坂誠二前代表の



道連新代表として決意を述べる勝部参院議員

辞任に伴い、新たな道連の舵取り役となった。

大会の冒頭、石川知裕元衆院議員と上田文雄前札幌市長の逝去に哀悼の意を表し、黙とうがささげられた。その後、役員人事案が承認され、代表代行に松木けんこう衆院議員、道下大樹衆院議員、徳永エリ参院議員、副代表に荒井ゆたか衆院議員とおおつき紅葉衆院議員が就任し、新しい常任幹事会の体制が発足した。

勝部新代表は「政党にとって最も大切なことは政策を実現し、選挙に勝つこと。そのためには多くの仲間をつくる努力が欠かせない。力を結集し、一つひとつの政策を実現し、一つひとつの選挙に勝利するため団結して進もう」と力強く呼びかけた。

次期衆院選については、道内選出の現職12人全員の当選を目標に掲げ、「熱を持った選挙を通じて、多くの道民と共に立憲民主党を前へ進める形をつくっていく」と決意を表明した。

党道連広報委が学習会

「SNS活用で政治活動を強化」

臨時大会後に、党道連広報委員会主催による学習会が開かれ、政治・選挙活動におけるSNSの効果的な活用について学んだ。講師は、元衆院議員で現在はインターネット選挙戦略の専門家として活躍する株式会社プランワークス代表・高橋昭一氏。高橋氏は、東日本大震災時に民主党の災害ボランティア室事務局長として復旧支援に尽力した経歴を持つ。

講演では「SNS利用者は年々増えているが、SNSだけで選挙に勝つことはできない」と指摘し、「街頭演説の動画を投稿するだけでは『やっている感』に過ぎず、双方向性のある発信が不可欠」と強調した。

また、効果的なコミュニケーションのためには、きめ



政党に求められるSNS対策について講演する高橋氏

細かなレスポンスやフォロワーとの対話が重要であるとし、参加者たちは講演後のグループディスカッションを通じて具体的な活用方法について議論。高橋氏への質問や意見交換を通じSNS戦略への理解を深めた。

第3回定例市議会【開会】

24年度決算など審議

第3回定例市議会が9月24日開会し、秋元克広市長は、2024年度各会計決算認定案や、5億9500万円を追加する25年度一般会計補正予算案など22議案を提出した。

24年度の一般会計最終予算額は、子ども・子育て支援の拡充やGX(グリーン・トランスフォーメーション)・脱炭素関連、物価高騰対策を盛り込んだ年度途中の補正予算による対応を含めて1兆3306億円(前年度比1.4%増)。

これに対し、歳入決算額は1兆2402億円(同2.5%増)、歳出決算額は1兆2303億円(同2.4%増)。歳入・歳出の差額から25年度への繰越財源を除いた42億円が実質収支となり、このうち22億円を財政調整基金に積み立てた。

市は25年度に財政調整基金を104億円取り崩す予定。その場合の25年度末の基金残高は180億円を想定している。市の中期計画「アクションプラン2023」で最低限維持するとした「100億円」を上回っているものの、16年度以来9年ぶりの少ない残高となる。24年度各会計決算は特別委員会(全9回)で審議される。

予算執行にあたり、秋元市長は「増収に向けて鋭意努力し、支出については庁内や他団体との連携を図りながら、職員の創意工夫と努力による経費の節減と効率的かつ合理的な執行に努めた」と説明。「各会計とも予算計上した事業については、ほぼ所期の目的を達成することができた」と述べた。

GXファンドへの出資など

一般会計の補正予算案は、GXファンドへの出資等8億3100万円を追加する一方、災害時の通信手段となる衛星地球局の更新スケジュール変更に伴い2億3600万円を減額。補正後の一般会計総額は1兆3045億6100万円となる。

追加分の主な内容は、GX産業の振興と金融機能の強化集積に向け、その呼び水とするための「(仮称)札幌・北海道GXファンド」への出資に充てる5億円のほか、FISスノーボードハーフパイプワールドカップへの補助に4500万円を盛り込んだ。

また、中島公園周辺に整備する、5千人規模の国際会議や展示会に対応した「新MICE(マイス)施設」の土地取得費を、翌年度以降の支出をあらかじめ決める債

務負担行為として計上した。

整備予定地は27年2月末で営業を終了する札幌パークホテルの敷地内北側。土地は28年度に購入予定で、取得限度額は「新MICE施設整備予定用地の取得に係る予約契約に基づいて算定する不動産鑑定評価額」と設定した。新施設は33年度の開業を見込んでいる。

本定例会の会期は10月31日までの38日間。代表質問は9月29日から3日間行われ、民主市民連合のうるしはら直子市議(白石区)と水上美華市議(北区)が登壇した。

上田前市長を追悼

秋元市長「まちを将来へ引き継いでいく」



前札幌市長・上田文雄さんの死去を悼み黙とうをささげた本会議

本会議の冒頭、前札幌市長・上田文雄さんの死去を悼み黙とうをささげた。秋元市長は追悼の言葉で「先人の明を持って本市の発展を力強く支えてこられた上田前市長には、これからも多くのことを学ばせていただきたいと思っていたので、突然の訃報が悔やまれてならない」と述べた。

弁護士の上田さんは2003年、政令指定都市初の再選挙を経て、第9代札幌市長に就任した。民間出身の市長として3期12年間務め、自治基本条例の制定や「さぽーとほっと基金」の創設、地下歩行空間の整備、文化・芸術を通じたまちづくりなどに尽力。また、将来を見据えた健全な財政基盤を築いた。

秋元市長は「人を大事にすることを原点に、市民自治が息づくまちづくりの礎をつくられた」と語り、「偉大なる先輩の功績を深く胸に刻みながら、上田前市長がこよなく愛したこのまちを将来へ引き継いでいく」と誓った。



「上田前市長が愛したこのまちを将来へ引き継いでいく」と誓った秋元市長